

寄せ場の変容と山谷・釜ヶ崎 -2-

水野 阿修羅 *

Ashura MIZUNO

Transition of Yoseba, Sanya and Kamagasaki -2-

①山谷

7月27日、東京山谷に行った。朝5時半泊まった新宿歌舞伎町のホテルを出て地下鉄に乗ろうと新宿駅東口近くのビルの階段を降りようとしてビックリ、階段にも踊場にも人が寝てる。新宿駅南口のバスタの横のガード下には荷物持ちの野宿者が何人もいるのは知っていたが、こんなところにと驚いた。

6時過ぎ南千住駅から玉姫職安めざして歩き、40分ごろ職安につくが労働者がいない。こんなに早く出払うことはないだろうと、職安の中をのぞくと、東京都の「特別就労対策事業」は「熱中症アラームが出たので中止です」。労働者に聞くと「7月24日からずっとだよ」とのこと。現場まで行ってからの中止ならお金が出るが最初から中止なら何もしないとのこと。さらに、東京都は「労働者のみなさんの生命・健康に重大な被害を与える8月は、夏季休暇期間として、特別就労対策事業をおやすみします。」とのこと。

この「東京都特別就労対策事業」は2700人ほどの人が登録し、毎日150人ほどの仕事が出る。公園、霊園、埋立地などでの仕事が出て、8時半から3時で8921円の金が出る。山谷では他に「城北労働・福祉センター」で「荒川区内道路清掃」が「1日3人」の仕事が週2回。「公園特別清掃」が月2回、などがあるが、労働者の登録自体をあまりしないので、この段階では85人だった。

暑さで中止なんて釜ヶ崎ではありえない。この仕事でしか現金を手に入れられない労働者も多数いる。釜ヶ崎ではどんなに暑くてもみんな工夫して暑さ対策を取り、「特別清掃事業」を中止したことはない。釜ヶ崎の高齢者特掃事業は釜ヶ崎日雇労働者組合の要求から始まり、拡大を目指して大阪城や市役所横にテントを張りがんばって獲得したもので、簡単に

スケールダウンしたりさせない。

玉姫職安では、東京都の「特別就労事業」の紹介後、一般の求人紹介があるが、私が何回か覗いた時は1件あるかなしかなかった。日雇雇用保険の支払いも聞いたら「1日5、6人です」とのこと。

玉姫職安の周辺はおろか山谷中を探しても「手配師」の姿は見えない。玉姫職安以外の所から仕事に行く労働者の姿もほとんど見ない。釜ヶ崎なら「西成労働福祉センター」周辺だけでなく朝はあちこちで手配師が立ち、労働者が集まり仕事に行く風景が見られる。

街の風景も変わった。玉姫職安を後にし朝飯を食べるために食堂を探すのが1軒もない、持ち帰り専門のけんちん汁屋が1軒あるだけ。喫茶店も朝は9時すぎないと開かない。釜ヶ崎なら朝5時過ぎに私がしっているだけでも5軒は開いている。夜も昨年12月、今年3月、と続けて山谷に夜に訪れたが、めし屋が無い。寿司屋が2軒、中華料理屋が1軒あるだけ。南千住駅まで出れば何軒かあるだろうが、山谷の中には居酒屋もほとんどない、屋台に毛に生えたような店が2軒あるだけ。コンビニとミニスーパーはあるが。街歩きの楽しみはゼロだ。まえばアーケードのある商店街もあったが、野宿者排除のためかアーケードがなくなり、ほぼ同時に大半の商店も営業をやめた。

②釜ヶ崎

釜ヶ崎にはアーケードのある商店街が健在。中国人のカラオケ居酒屋が100軒以上もある。こんなに増えて大丈夫かなと思ってたが一部の入れ替えはあるけどほとんど健在。不思議だなとおもっていたら、「横丁の戦後史」という本に「回遊する楽しみ」というのが出てきた。東京にある渋谷の「のんべえ横

* 地域史研究者

丁」などちいさな店が集中してるところは客が回遊するし、店も個性を競い協力して客を回すなどしているという。飛田本通りなどそのままだ。新世界のジャンジャン町も一緒だ。ジャンジャン町は道路が狭く、大阪市が隣に「スパワールド」を作った時に、ジャンジャン町のための道路拡張用地を提供して広げようとしたが移転費用の問題などで誰も移転せず現在に至り、あの狭さが逆に魅力（車が通らない、歩行者天国）になった。そういえばアーケードのある通りはほとんど昼は車が通れない。だけど阿倍野再開発でできたアーケード商店街は「キューズモール」以外シャッター通りになっている。再開発で地権者や大型店に入居を優先し小さな店はみんな保証金をもらって出ていったため。

小さな店がたくさんあることがいい意味での競争、個性を生み面白い店ができる。一軒一軒の敷地が広いと全国チェーンの店しか成り立たない。逆を言えばジャンジャン町には全国チェーンは入っていない。敷地の狭さも理由の一つだろう。新世界に「マクドナルド」と「くら寿司」が入ったがそこは元大型パチンコ屋だった。釜ヶ崎の「あいりん総合センター」跡地に「賑わいを」といった論議がされたが、大型店舗は全国チェーン・大資本を利するだけ。ジェントリフィケーションが促進され貧乏人は排除される。

③街づくり

今までの寄せ場の運動は、労働問題と居住権をめぐる闘われてきた。街づくりといった関わりはあまり考えてこれなかった。釜ヶ崎と山谷の現状から「街づくり」を考えてみる。わたしは昔は「ドヤ＝簡易旅館」をマイナスと思っていた。だから公営住宅要求がメインだった。だが、流動する層には「ドヤ」こそが必要であり、そこから定住する人はアパートへ移ればよいだけ。最近はゼロゼロ物件とか言って入居に金のかからないシステムが出来たが月ぎめがメインで流動層にとっては使いにくい。問題は最近増えた「民泊」だ。釜ヶ崎では中国人が日本人の出て行った後を買取りどんどん「民泊」化している。これがどうなるのか？

他方で、簡易旅館からアパートになった物件を買いあさってる業者がいて、入居者の奪い合いも盛んだ。そのための「無料食堂」や「炊き出し」があちこちで始まっている。ダルビッシュの弟のようなむかしやんちゃしてた人が罪滅ぼしでやる「炊き出し」もふ

えてる。もともとやっていた「勝ち取る会」や「稲垣」「キリスト教系」も健在。どえらい数だ。

貧困ビジネス系では、「就労支援B型」も急増。簡単な作業をすれば月1万5千円手にできると、生活保護受給者狙いの業者があちこちに作業所を立ち上げ、食事付きなどで利用者を奪い合ってる。この辺の所は「人生しばしばホームレス」かつちゃん談・中川波香文(さくら舎刊)にくわしい。良心的な支援者、事業体と悪質な業者を差別化し居住者の利益を守ることが大切だ。

今釜ヶ崎では、小さな店舗を利用し面白い動きが進んでいる。小さなライブハウス「根のシン」は元確からラーメン屋、たったつまでも20人ぐらいしか入らないけど、いつも満員。YouTubeで宣伝して若い人ばかり。SPACE・HOUSEもちいさなライブハウス。地下鉄動物園前には、立ち食いの焼き鳥屋が、店内は3人しか入れないのでみんな表の道路で立ち食いしてる。ホルモンの「ヤマキ」は大人気で順番待ちの行列ができ、そのせいもあり、ちいさなホルモン屋があちこちにできている。

YouTubeのジョブログも自分の店を持ち若い人でいっぱい。釜ヶ崎の中のコンビニはローソンとファミリーマートだけでセブンイレブンはない。ローソンとファミリーマートは地元の人がフランチャイズで加盟してるので、セブンイレブンは副社長が下見に来た時同行した不動産屋が「ここはやめとく」と聞いている。釜ヶ崎差別？の結果、駅前なのにまだ家賃が安い。小さなスペースが結構ある。これを維持するには猥雑さが必要。「ちょっとやばそう」とか「何してんのや？」なんて店が多いほうがおもしろい。

労働者が減った分「生きるのが下手な人」が増え、外から見ればややこしい街に見える。実際は支援者も多く、楽しい街だがそう見ない人も多い。そんな人たちに惑わされず、「生きるのが下手な人たちが助け合う素晴らしい街—釜ヶ崎」を守ろう。

2023・9・5

批判や意見は asyura.kama@outlook.jpまで